

# 草の根通信

Vol.76 (2013年10月1日発行)



大田市の地域分科会で流しそうめんを楽しむカリスバーグ代表団

## P12 事務局だより

2014年草の根サミット開催地は、サンディエゴ&ティファナに決定!



## P12 協賛企業一覧

平成24年度寄附協賛企業一覧



P10

特別対談

×  
ビビる大木さん  
×  
中濱京さん



P07

参加者の声

テス・タナカさん寄稿



P05

地域分科会 (ホームステイ・プログラム)

歓迎レセプション  
オープニング・セレモニー  
抹茶と和菓子体験



P04

朝のミニ講座

ローカル・ツアー

P03

大会スケジュール・データ  
サミット同窓会

特集

第23回しまね大会 開催報告

たくさんのご協力ありがとうございました



いつも新しい空を目指して。

**ANA**

A STAR ALLIANCE MEMBER 

国内線のお問合せ ☎ 0570-029-222 (全国一律料金) 国際線のお問合せ ☎ 0570-029-333 (全国一律料金) [www.ana.co.jp](http://www.ana.co.jp)

特集 しまね大会 開催報告

「第23回日米草の根交流サミット2013しまね大会」は、2013年7月2日から7月8日まで、神話の故郷、島根県内各地で開催されました。60年に一度の「大遷宮」を終えたばかりの出雲大社 / 仮拝殿でのオープニング式典をはじめ、アメリカからの参加者達は、他では味わえないユニークな文化体験と、おもてなし精神に溢れた島根の方々のホスピタリティに触れ、感激の一週間を過ごしました。

第23回日米草の根交流サミット

# しまね大会 開催報告

大会参加者数

参加者総数  
**2,000名**  
日本からの参加者、  
現地のホストファミリー、  
ボランティア、  
ゲスト等を含む

アメリカからの参加者数: 95名  
(うち83名がホームステイを含めた全日程に参加)

イベント別参加者数:

オープニング・セレモニー	230名	ボランティア	80名
オープニング・レセプション	230名	キーパーソン&実行委員会	40名
地域分科会プログラム	500名	クロージング・セレモニー	200名
学校等での特別交流	500名	クロージング・レセプション	220名



安来節どじょうすくいスタイル



七夕飾りとカリスバーク団

大会スケジュール

7/1(月)	参加者、米国を出発	
7/2(火)	成田空港・羽田空港経由で、米子空港または出雲空港に到着。 宍道湖温泉へ。 (※日本のサミット同窓生、出雲市内「ラピタ」で懇親会) ＜ホテルー畑泊＞	
7/3(水)	早朝: ミニ講座 (講師:小泉凡教授、ポール丸山CIE-US理事) 午前: オプションル・ローカル・ツアー [A: 松江周遊, B: 足立美術館と安来節, C: 由志園と鬼太郎ロード] 午後: 和菓子と抹茶体験 夕刻: オープニング・セレモニー (於:出雲大社・仮拝殿)と オープニング・レセプション (於:島根ワイナリー) ＜ホテルー畑泊＞	
7/4(木)	地域分科会へ出発	＜ホームステイ＞
7/5(金)	地域分科会プログラム	＜ホームステイ＞
7/6(土)	地域分科会プログラム	＜ホームステイ＞
7/7(日)	午前: 各地域から松江イングリッシュ・ガーデンへ移動 午後: クロージング・セレモニーとフェアウェルパーティ 夜: 玉造で温泉体験 ＜玉造温泉泊＞	
7/8(月)	成田へ向けて出発 またはオプションル・プログラム (京都&東京、広島&高知&東京、仙台&東京、東京フリー)へ参加	

サミット同窓会

サミット大会オープニング前夜の7月2日には、過去のアメリカでのサミット大会に日本から参加した方々や、CIE 賛助会員、草の根交流に関心のある方々など、約 60 名が全国から集まり、出雲市内の「ラピタ」にてサミット同窓会 (懇親会) が催されました。サミット同窓会 (中山貴恵会長) は、2009 年のみやぎ大会、2011 年の高知大会に続き、第 3 回目の開催となりました。

懇親会では、小泉八雲ご子孫の小泉凡教授による講演「ハーンが遺した日米の絆 / ボナー・フェラーズと戦後の日本」に加え、地元ボランティアグループ「鳶巣銭太鼓サークルかぐや姫」による安来節体験レッスンや傘踊り、葦笛なども披露され、おおいに盛り上がりしました。

サミット同窓生、賛助会員の皆さんは、翌日 (7/3) のローカル・ツアーやオープニング式典などにも参加して旧交を温め、アメリカからの参加者とも交流し、2泊3日の島根滞在をおおいに楽しみました。



懇親会風景



どじょうすくいのレッスン中

# 特集 しまね大会 開催報告

## 朝のミニ講座 (7月3日)

松江到着翌日の7月3日の朝には、宿泊した「ホテル一畑」の会議室にて、二人の講師によるミニ講演会(約1時間)を開催しました。早朝にも関わらず、ほとんどのアメリカからの参加者が出席。小泉八雲の曾孫である小泉凡教授による「ハーンが遺した日米の絆」、またポール・マルヤマ南コロラド日米協会会長による、氏の著書で父親の体験を綴った「満州からの脱出」の講演に、熱心に耳を傾けていました。



小泉教授による講演



丸山会長と小泉教授

## ローカル・ツアー (7月3日)

その後、午前10時には、参加者たちは3つのローカル・ツアーに分かれて出発。少々雨にも見舞われましたが、参加者達はそれぞれ趣向に富んだツアー内容に大満足でした。



由志園と鬼太郎ロードにて



足立美術館と安来節



松江周遊

## 抹茶と和菓子体験 (7月3日)

藩主であり、かつ江戸の代表的茶人である松平不味(ふまい)公の影響で、島根の抹茶と和菓子は全国的に有名です。ツアーから戻ると、地元の和菓子店「風流堂」さんとお茶の「中村茶舗」さんのご協力で、美味しい抹茶と和菓子がふるまわれました。また、全国一に輝く和菓子職人による芸術的な和菓子づくり実演も披露されました。



和菓子作り実演



## オープニング・セレモニー (7月3日)

清めの雨もあがり、いよいよ7月3日の夕方からは出雲大社の仮拝殿にてオープニング式典が開催されました。参加者達は、「大遷宮」という大きな祝賀行事を終えたばかりの出雲大社に参拝し、おごそかな気分で式に臨みました。



仮拝殿内の様子



出雲大社



カート・トン  
米国大使館首席公使



スコット・ホイットフィールド氏  
(船長6代目子孫)



マシュー・ベリー 提督子孫



溝口善兵衛 県知事



TOMODACHIカリスバグ代表団のプレゼンテーション



両家間での地球儀の交換



千家尊祐 出雲大社宮司



長岡秀人 出雲市長



中濱家とホイットフィールド家の挨拶



渡邊泰造 CIE理事長

## 歓迎レセプション (7月3日)



バーベキューに舌鼓



出雲神楽の披露



島根ワイナリー外観



藤原昌人  
ニューヨーク島根県人会会長

出雲大社でのオープニング式典の後には、場所をかえて島根ワイナリーでバーベキューを囲んで歓迎レセプションが開催されました。参加者230名が島根ビーフやシーフード、新鮮な野菜に下鼓を打つ中、出雲神楽も披露され、島根ならではの雰囲気となりました。

特集 しまね大会 開催報告

地域分科会ーホームステイ・プログラム (7月4日~7日)



7月4日午前、参加者達はいよいよ草の根サミット大会のハイライトである地域分科会へ出発しました。分科会は県内11の市町で行われ、参加者達はホームステイをしながらそれぞれの地域の方々と交流を深めました。( ) カッコ内は参加者人数



1 松江市 (9)



2 安来市 (9)



3 出雲市 (8)



4 出雲市・平田地区 (8)



5 雲南市 (3)



6 奥出雲町 (3)



7 大田市 (15)



8 江津市・浜田市 (6)



9 益田市 (9)



10 隠岐郡 (13)

特集 しまね大会 開催報告

クロージング・セレモニー／フェアウェル・レセプション (7月7日)

地域分科会終了日、七夕でもある7月7日の午後、参加者と近隣のホストファミリーらが松江イングリッシュガーデンに集合しました。大会を締め括るクロージング式典は午後4時半から屋内で開始。その後、宍道湖に面した美しいガーデン (屋外) にてフェアウェル・レセプションが開催されました。式典では、地域分科会の振り返りと、翌年のサンディエゴ・ティファナ大会の紹介もあり、今後の交流の継続を期待させるものとなりました。レセプションは芝生の上。ご当地ゆるキャラの「しまねっこ」「あっぱれ君」も大人気。加えて、「まつえ若武者隊」によるチャンバラ体験付きおもてなし、「松江城鉄砲隊・姉さま鉄砲隊」の美しくも勇ましい演武、「松江ニューオーリンズ倶楽部」の楽しい演奏など、最後までおおいに盛り上がりました。



狩野務 ニューヨーク島根県人会名誉会長



能海広明 松江市副市長



ポール丸山 CIE-US理事



有馬毅一郎 大会実行委員長



鈴木敬子 サンディエゴ・ティファナ日本協会マネージャー



まつえ若武者隊



式典会場全体



式典会場



ガーデンパーティの様子



しまねっこといっしょ



松江城鉄砲隊・姉さま鉄砲隊



あっぱれくと



おわかれ

ポスト・サミット・オプション・プログラム (7月8日～)

7月8日朝、アメリカからの参加者たちは、たくさんの友達と思い出をつくることのできた島根を後にしました。そのまま帰国した参加者は少数。ほとんどは、CIE が用意した4つのポスト・サミット・オプション・プログラムに参加したり、自分自身のプランで日本を周遊したりしました。ポスト・サミット・オプション・プログラムでは、京都、高知、仙台においてさらなるホームステイも体験。充実した日本滞在となりました。



京都&東京プログラム - 京都駅にて



広島・高知&東京プログラム - 高知にて



仙台&東京プログラム - 仙台にて



東京フリー - スカイツリーにて

## しまね大会 参加者の声

しまね大会にサンフランシスコから一人で参加したテス・タナカさん(15歳)が、大会後に以下のエッセイを写真入りで送っていただきましたので、紹介します。

## Tess Tanaka

テス・タナカ

「たった一週間、他の国で過ごしたことで、一人の人間がその国の虜になるなんて！」



7月1日、私は飛行機の窓際の席に座り、父の生まれ故郷である美しい国日本に着陸するのを心待ちにしていました。アメリカからの飛行時間は10時間。私にとっては家族と一緒にではなく一人で海外へ渡った初めての経験でした。飛行機は無事空港に到着し、機内の前方の席に座っていた2人の友達とも再会することができました。とうとう日本に来たのです。

米子空港に着くと、ボランティアの方達がすぐに私達を迎えて下さいました。私達が日本の皆さんにお会いするのを楽しみにしていたのと同じくらい、日本の皆さんも私達に会うのを楽しみにしていたことを知り、とても嬉しい気持ちになりました。全員の準備が整い、私達は大型バスに乗って松江の「ホテル一畑」に向かいました。そのバスの中が私の冒険の旅の始まりでした。そして私はすぐに日本が大好きになってしまいました。例えば、車の運転席がアメリカと反対側にあるとか、街をゆく人たちのトレンドリーなファッションとか、そんな些細なことでも私は日本が大好きになったのです。ホテルに着くとそこにはさらに多くのボランティアがいらっしゃり、私達が部屋に落ち着くのを手伝って下さいました。

翌朝は、友人たちと松江での初日を過ごすのが楽しみでわくわくした気持ちで目が覚めました。ホテルでの朝食は一日のスタートとしては申し分のないものでした。その日私は松江周遊ツアーに参加し、松江市内数か所を回りました。堀川遊覧船に乗り、島根県立美術館を訪れ、月照寺を見学し、そこでお茶も立ててもらいました。

松江周遊は日本での胸をわくわくさせるような数々の体験の素晴らしい出発点となりました。夜は出雲大社で行われたサミット開会式典に出席しました。本当にすばらしく息をのむような式典でした。その後、ワイナリーへ向かい、翌日から共に過ごす地域の方々とともにバーベキューを楽しみました。

翌朝は益田市へ向けて出発しました。益田まではバスで4時間かかりましたので、美しい景色を眺めながら少し寝ることにしました。途中バスは他の参加者を江津市や大田市で下して行きましたが、地元の皆さんが彼らを喜んで迎えて下さっている様子は心温まる光景でした。

最後に到着したのが益田市で、私達は公園でバスを降り、そこでおいしいお昼ご飯を食べました。まぎれもなくこの時の昼食が私にとって日本滞在中の一番のお気に入りでした。おいしいうどんと古代米の赤いおにぎりでした。そして午後はキーパーソンのトシエさんが色々なところを案内して下さいました。

益田の伝統的な神楽も見ました。農業高校も訪問し、その生徒さんにも会いました。そのうちの数名とは今 Facebook でやりとりをしています！彼らに会い、友達になれたことを本当に嬉しく思っています。

夕方には益田分科会の歓迎会が開かれました。会場に入るとそこには「Welcome to Masuda」と書かれた大きな横断幕がかけられ、その下には私達全員の名前が書かれていました。とても感動的な光景でした。長テーブルにはご馳走も並んでいました。歓迎会では、益田市長にもお会いすることが出来ました！そして、とうとうここでホストファミリーの方達に会うことができました！私は不安と緊張でいっぱいでした。

でも、言うまでもなくホストファミリーと過ごした時間が、大会の中で一番素晴らしい時間となりました。ホストマザーのマサコさん(38)は英語の先生をしておられました。マサコさんとはとてもいい関係を作ることができましたし、他の家族の方との会話も助けて下さいました。そして、1年生のセイちゃん(6歳)と3年生のリンコちゃん(8歳)は本当に可愛かったです。ヒサオさんとカズエさんは、セイちゃんとリンコちゃんの祖父母で、マサコさんのお母さんにあたる方でした。子どもたちのお父さんであるヨシノリさんは、研究のお仕事をしておられて東京で暮らしているため、月に2回家族のもとに帰ってこられます。残念ながら私はお会いすることができませんでした。

## 特集 しまね大会 開催報告

家族の皆さんは言葉では言い尽くすことが出来ないほど私に親切にして下さいました。とても温かく迎え入れて優しくして下さい、私はまるでお姫様になったような気分でした。本当に至れり尽くせりでした。たくさんの思い出を一緒に作れたことを思うと、嬉しくて涙が出そうになります。

日本人はいつまでも別れを惜しみながら見送ってくれることで知られていますが、セイちゃんもリンコちゃんも、バスが角を曲がっても後を追いかけてきてくれました。私は窓を開けて手を振りサヨナラのキスを送りました。そして、バスが走り出した後、窓を閉めて泣いてしまいました。彼らは私の人生に大きな感動を与えてくれました。彼らのことを忘れることはないでしょう。お別れをすることはとても悲しいことでした。でもこれでさようならではないのです。いつかまた必ず再会できることを信じています。

7月7日の朝、松江に戻る途中の大田市で最後の昼食、スパゲッティ・ミートボールをいただきました。その日の夕方にはクローゼング式典が開かれました。そこでは、サンフランシスコから参加していた友人に再会し、島根の方々には最後のお別れをしました。この数日間を益田分科会でいっしょに過ごしたメンバーとは、素晴らしい体験を共有し、本当に仲良くなりました。益田への参加者は、初来日の人から流暢な日本語を話すまで色々でした。



私が帰国予定だった7月8日、私は成田でサンフランシスコ国際空港で飛行機事故があったと知らされました。そして、そのせいでフライトがキャンセルになり、7月10日まで東京に滞在することとなりました！

サンフランシスコで起こったことは本当に破壊的でしたが、以前から訪れてみたかった東京に2泊することができました！ 原宿、品川、新宿、銀座に出かけ、スカイツリーでは息を飲むほどに美しい東京の景色を楽しみました。島根の素朴な生活と、東京の活気づいた街並みの違いには、何とも非常に驚かされます。

このサミットに参加したことは、私の人生のなかで最も刺激的な体験となりました。たった一週間、他の国で過ごしたことで、一人の人間がその国の虜になるなんて、なんと素晴らしいことでしょう。しばらくしたら、また戻ってきます。

アリガトウ ゴザイマス。

ありがとう、島根！

(翻訳・下山淳子)



### 他にも、たくさんの感想が寄せられています！

- ◆ 18歳の誕生日記念にと、父がサミットに誘ってくれて参加しました。日本の文化と日本語に興味を持ち出してから二年になり、ぜひ訪問してみたいと思っていました。今は、私が経験した日本文化と、日本でお会いした人々と恋に落ちたように感じています。この旅行が私の生涯を変えるものになります。間違いなく日本にもう一度帰ります。(カリーン・メツガーさん・女性)
- ◆ 私のホストファミリーは美しく緑豊かな自然の中の農家でした。田んぼもたくさんありました。ホームステイはあまりに短すぎましたが、私は必ずホストファミリーと、ここで会った方々に再会するために戻ってまいります。(ジョン・エバンスさん・男性)
- ◆ ごく日常的な事柄が、儀式や礼節までに昇華されていると感じました。店員による丁寧な包装、手の込んだ料理、食事作法、靴の揃え方、お風呂に入る手順など、すべての事が細心さを持って行われており感動しました。(エリザベス・コントララスさん・女性)
- ◆ サミットを通じて、通常の旅行では経験できないような食事、ホテル、催事を楽しむことが出来ました。しかし、もっと素晴らしく有意義だったことは、普通の日本人の生活に溶け込むことができたことでした。(ジェイムス・メツガーさん・男性)



次の花を咲かせよう。

世界を舞台に多岐にわたる分野で、  
様々なビジネスを創造してきました。  
それでも、まだまだ成長過程。  
人のため、社会のために、  
まだ見ぬ花を咲かせていきたい。  
私たちはこれからも創造し続けます。

すべては、  
ひとつの思いから。

[www.mitsubishicorp.com](http://www.mitsubishicorp.com)

 三菱商事



# 特別対談

**ビビる大木**  
ジョン万次郎資料館名誉館長



**中濱京**  
万次郎直系5代目

高知県土佐清水市のジョン万次郎資料館名誉館長のビビる大木さんと、万次郎直系5代目の中濱京さんが、東京・赤坂で初対面を果たしました。その時の対談内容をご紹介します。

**大木** お会いできて光栄です。今日は、いくつか質問させていただこうと思っていますので、よろしくお願いします。

**京** こちらこそ、よろしくお願いします。

**大木** 京さんは、万次郎の5代目ということですが、そんな偉大な先祖をもっていることを知ったのは、いつ頃なのですか？

**京** 小さいころから、アメリカのお客様や関係者の方々が万次郎のことで家に入りしていたので、感じてはいたのですが、きちんと意識したのは小学校2年生の時です。国語の教科書に万次郎の話が出て、先生が教室で説明したら、休み時間に隣のクラスの男の子が教科書をもってサインを求めて入ってきたんです。親から聞いたというより、その時のインパクトが大きかったと思いますね。

**大木** なるほど。でも、みんなが知っている歴史上の人物の子孫って、どんな気持ちですか？

**京** すごく重たいですよ。万次郎は英語ができたので、私もネイティブのように話せると誤解されたり、冒険好きと思われたり(笑)。万次郎は万次郎、私は私なんですけど、何故か混合して見られてしまうんです。



**大木** イメージがあると、どうしてもねえ。でも、お父様の本を読ませてもらったんですが、すごいですよね。漂流した時の黒潮の流れまで、全部調べてあるのには驚きましたよ。鳥島まで行って調べていたり。びっくりです。

**京** 父も海の事が好きでしたし、医師の傍ら万次郎関連について、寝る間も惜しんで一生懸命にあの本を書いていた。自分の代でできることは残さなければという使命感があったのだと思います。世の中に万次郎の本は沢山ありますが、父の本は史実に基づいた一番詳しく正確な本です。

**大木** 中濱家に伝わる万次郎のお宝みたいなものはあるんですか？

**京** お宝というほどのものはないですが、代々守り続けてきているものはありますよ。第二次世界大戦中は、焼けてしまわないようにと、防空壕に隠したりして随分と気を使ったようです。

**大木** たとえばどんなものがあるんですか？

**京** たとえば万次郎が咸臨丸土産として持って帰ったウェブスターの辞書とか。福沢諭吉と一緒に買ったといわれています。

**大木** 博物館などから貸してくれて言われませんか？

**京** 言われますよ。でも、困ったことにそういう古いものはページがぼろぼろでやぶけそうになっているので、写真で勘弁してもらっています。ライトも嫌うんですよ。我が家にいらして写真を撮られるだけでも弱ってしまうんです。だから、なるべく写真画像をご提供することにしています。

**大木** 家族で、お風呂上がりに見返したりしないんですか？

**京** (笑) 普段はあまり見ませんよ。

**大木** 僕は、土佐清水市のジョン万次郎資料館に展示してあるホイットフィールド船長の家のドアノブに感銘を受けてるんですよ。あのドアノブを船長や万次郎が触っていたかと思うと、すごいなあって。刀なんかじゃなくて、毎日使っていたものですからね。ところで、中濱家では万次郎ってどういう人だったって伝わっているんですか？

**京** 海の男だからお酒が好きだったんじゃないかっていう人が多いんですが、実は甘党だったみたいです。魚の甘露煮とかも作って食べていたみたい。それから、表に出て目立とうというタイプではなくシャイな人だったけど、陽気な人もあって、歌や踊りも好きだったようですね。いつもポジティブに考えて、あきらめない人だったから道が開けたんだと思いますよ。日本に帰ってきたいと思った時に、まずは鎖国でコチコチに固まっている日本にまっすぐに帰るんじゃなくて、琉球に行ったのも賢かったと思います。琉球では万次郎の陽気な性格と歌や踊り好きが幸いしてすぐに土地の方達に溶け込むことができたようです。



**大木** 実は嫁が沖縄出身なんですよ。で、沖縄に行った時に万次郎が上陸した浜にも行ってみました。そこにあるレストランの方が高知ご出身で、熱心に万次郎のことを調べておられましたね。すごいなあと思ったのは、万次郎は浜に着いて村の人に会った時、お湯を頼んでコーヒー飲んで一服したとか。江戸時代のその感覚がスゴイ。

**京** 万次郎は帰国後、コーヒーを飲んだり、パンを焼いたりもしていたようですよ。

**大木** なんだかカッコいいですね。アメリカにいた時にはラブレターも書いているんですよ。しゃれてますよね。日本は鎖国している江戸時代に、英語でラブレター書かなくて。新撰組とは違ったカッコよさですね。みんな知ったら、興味もつと思うんですけどね。

**京** 新撰組と言えば、万次郎は開国主義者とみなされて尊王攘夷派に命を狙われていましたから、江戸での一時期は、勝海舟が岡田以蔵をボディガードにつけてくれていました。

**大木** へえー。龍馬が船中八策を考えた船っていうのも、万次郎が外国に行つて買ってきた船なんですよ。



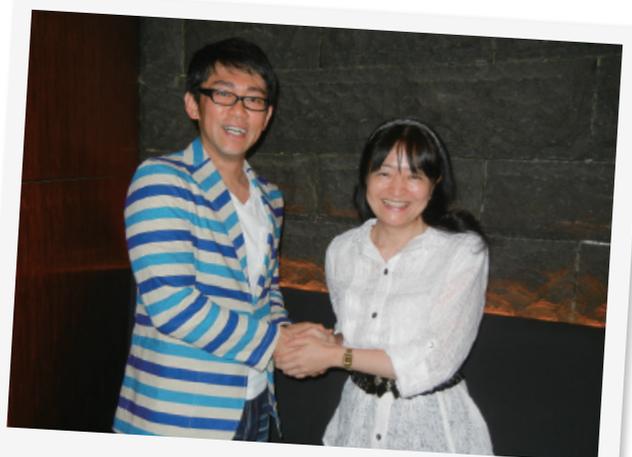
**京** 船中八策で使われた船は、万次郎が上海で買ったばかりのイギリスの汽船です。後藤象二郎も若い時から知っていて、万次郎からアメリカのデモクラシーなどの話を聞いており、それが坂本龍馬に伝わったと考えられています。なので、船中八策には万次郎の影がとこるところにみえるのです。万次郎が取調べで高知にいた2年近くの間、山之内内容堂の命令で、「漂客談奇」(アメリカ文化紹介本)を書いたり、藩主や知識人の家に呼ばれてはアメリカ事情を話しています。これらのことが、土佐の人々の目を海外に向けさせた啓蒙的な意味もあり、土佐から維新の要人が出てきたのも山之内内容堂の先見の明が発揮されたものと考えられています。

**大木** すごい影響力ですね。龍馬には、そういうアメリカの話はたまらなかったでしょうね。

**京** 龍馬と万次郎が直接に会ったという文献はないんですが、同じ土佐藩の中ですから、きっと会ってたんじゃないかって思うんですよ。

**大木** 色々調べなおしたら、新事実が出てくるんじゃないかなあ。おもしろいなあ。歴史にまったく興味のない後輩も周りにいるんだけど、そんな人達でもちよつと知ると、もっと知りたくなるみたいです。劇団四季のミュージカルにはなっているけど、もっと知られて欲しいです。

**京** 日米合作映画とか大河ドラマ化の話もあり、いつか実現するのを楽しみにしています。



**事務局だより**

**2014年草の根サミット開催地は、サンディエゴ&ティファナに決定!**

サンディエゴはカリフォルニア州南部に位置し、メキシコとの国境に近い美しい都市。西海岸有数のリゾートとしても知られています。「リタイアしたら住みたい街」のトップ争いをするほど穏やかな気候に恵まれ、真っ青な空の下、花々が一年中咲き誇っています。

2014年の日米草の根交流サミット大会は、このサンディエゴを中心に開催します。プログラムの一部では、国境を越えてメキシコのティファナも訪問予定です。

CIE事務局は、現地の「サンディエゴ・ティファナ日本協会」とともに大会の準備を始めました。日程は、9月23日から8日間。今からぜひご予定ください!

日程表 (予定)		
9/23 (祝)	成田出発 サンディエゴ国際空港着	<サンディエゴ泊>
9/24 (水)	オプション・ローカルツアー オープニング・セレモニー ウェルカム・パーティー	<サンディエゴ泊>
9/25 (木)	地域分科会	<ホームステイ>
9/26 (金)	地域分科会	<ホームステイ>
9/27 (土)	地域分科会	<ホームステイ>
9/28 (日)	クロー징・セレモニー	<サンディエゴ泊>
9/29 (月)	サンディエゴ国際空港出発 *または、オプションプログラムで各地へ移動	
9/30 (火)	成田着	



**平成24年度寄附協賛企業一覧**

- アイシン精機株式会社 / 愛知製鋼株式会社 / 曙ブレーキ工業株式会社 / アサヒグループホールディングス株式会社 /  
NTTコミュニケーションズ株式会社 / キッコーマン株式会社 / 株式会社ジェイテクト / 全日本空輸株式会社 /  
株式会社大庄 / 株式会社デンソー / 東京海上日動火災保険株式会社 / 豊田合成株式会社 / トヨタ自動車株式会社 /  
株式会社豊田自動織機 / 豊田通商株式会社 / トヨタファイナンシャルサービス株式会社 / トヨタ紡織株式会社 /  
株式会社永谷園 / 株式会社ニフコ / 日本郵船株式会社 / 日本ユニシス株式会社 / パナソニック株式会社 /  
日野自動車株式会社 / 株式会社日向農卵 / 三井住友海上火災保険株式会社 / 三菱商事株式会社 /  
三菱食品株式会社 / 明治安田生命保険相互会社 / 矢崎総業株式会社